

2009年3月期決算発表

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は平成21年5月20日現在のデータ等に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または、約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。

FY08決算概要

FY08連結業績

◆連結

(単位：百万円)

	FY07実績	FY08実績	前年度比
売上高	9,793	5,027	51.3%
営業損益	61	▲222	-
経常損益	▲295	▲204	-
当期純損益	▲484	▲485	-

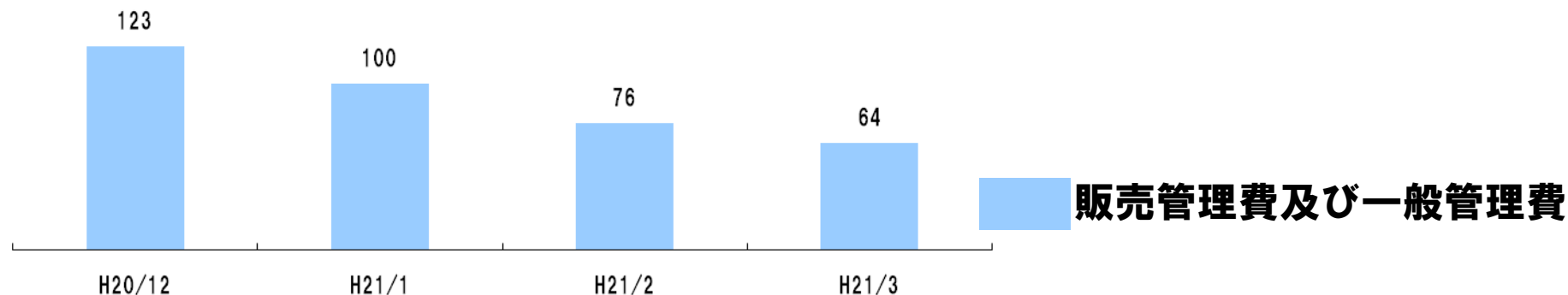
◆個社

	NIX	NIES	TIX	F+	親子間取引
売上高	3,757	407	770	260	▲167
営業利益	▲119	▲15	▲107	62	▲42

※NIX: ネットインデックス、NIES: ネットインデックスイーエス、NM: ネットモバイル、
TIX: テックインデックス(09年2月に譲渡済)、F+: エフプラス

ネットインデックス経営再建状況

ネットインデックス単体 販管費 月次推移



月次 販売管理費及び一般管理費削減内容 08年12月～09年4月 人員推移

項目	金額
・役員報酬の減額	▲7百万/月
・希望退職制度実施(23名)	▲11百万/月
・一部事務所移転(5月)	▲4.5百万/月
・その他経費(業務委託料等)	▲8百万/月
削減額合計	▲30.5百万/月

	08年12月	09年1月	09年2月	09年3月	09年4月
取締役、監査	6	3	3	3	3
執行役員	1	3	3	3	3
一般社員	93	82	82	78	62
社員合計	100	88	88	84	68

年間366百万の販管費の削減！

FY09業績予想

FY09業績予想

◆連結

(単位：百万円)

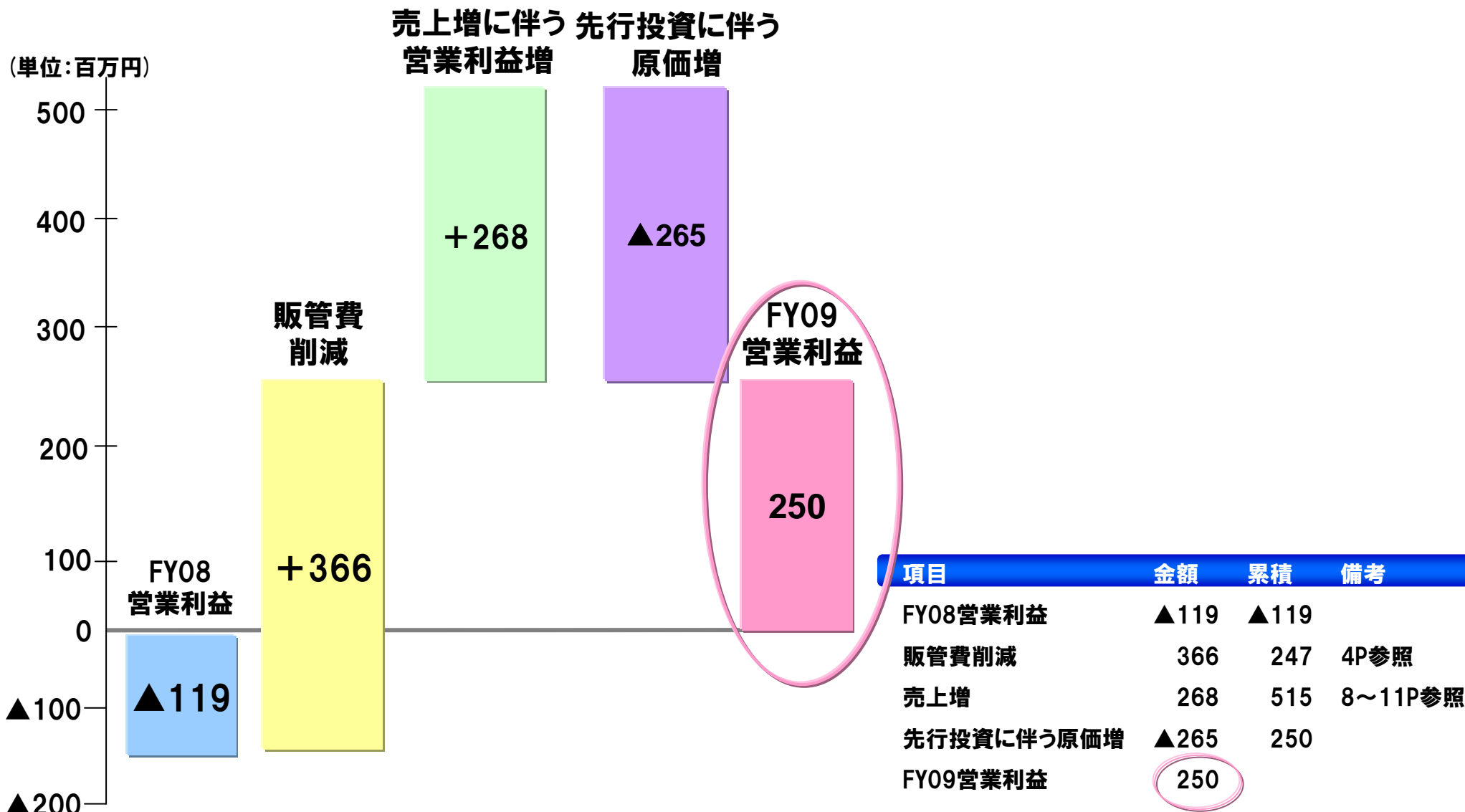
	FY08	FY09予想	前期比 増減率 (%)
売上高	5,027	5,874	14.4%
営業利益	▲215	262	182.1%
経常利益	▲202	231	187.4%
当期純利益	▲482	231	308.7%
EPS(FY08:17,832株、 FY09:36,582株)	▲13,176円	6,342円	307.8%

◆ネットインデックス単体

(単位：百万円)

	FY08	FY09予想	前期比 増減率 (%)
売上高	3,757	5,346	29.7%
営業利益	▲119	250	147.6%
経常利益	▲107	220	148.4%
当期純利益	▲572	220	358.8%

FY09ネットインデックス単体 営業利益増減

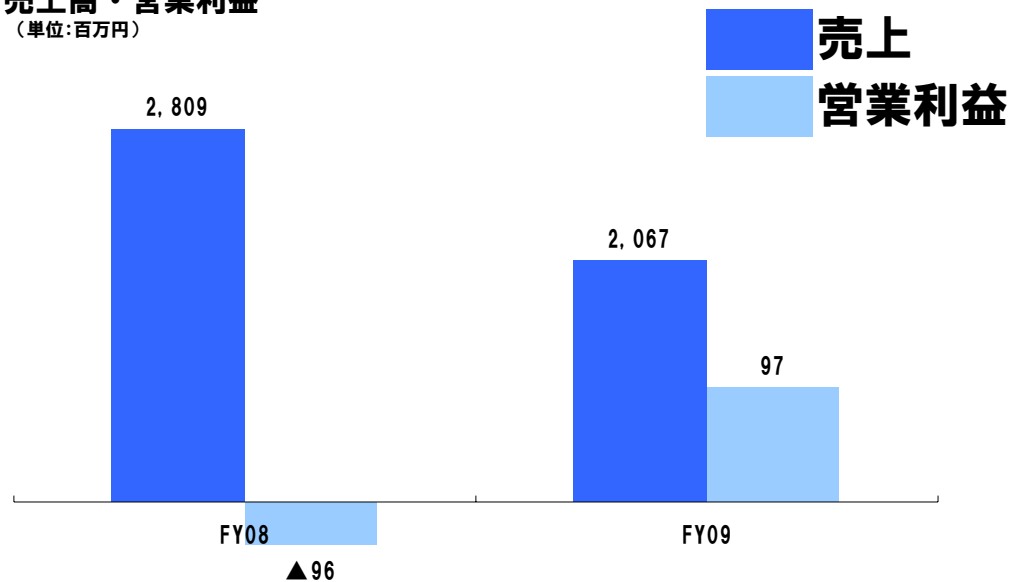


FY09 通信方式別売上見込 (PHS/XGP)

(単位：百万円)

	FY08	FY09	(増減率)
売上高	2,809	2,067	▲35.9%
営業利益	▲96	97	199%

売上高・営業利益
(単位：百万円)



PHS(現世代)製品については、投資を抑制し、既存技術の応用製品を投入。



W-SIMと対応製品



M2Mモジュール

XGP(次世代)は受託開発から2009年秋の本格サービス開始にあわせたパイロット製品の投入へ向けてリソースを集中。



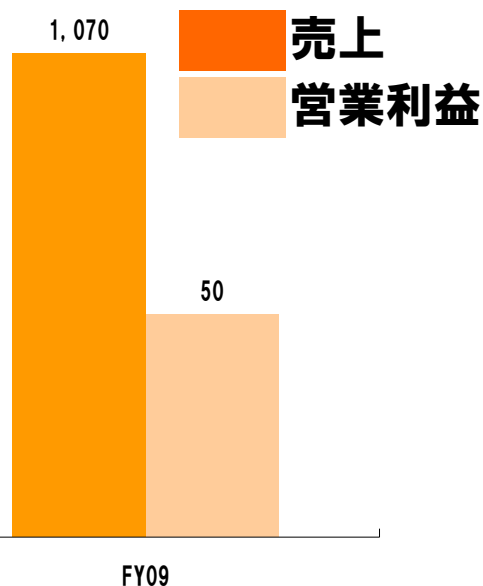
XGP対応データカード

FY09通信方式別売上見込（WiMAX）

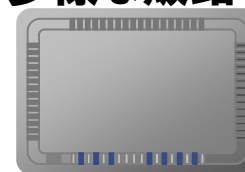
（単位：百万円）

	FY08	FY09	増減率
売上高	0	1,070	-
営業利益	0	50	-

売上高・営業利益
（単位：百万円）



2009年7月の本サービス開始にあわせて製品投入を計画。自社ブランド展開の他、OEM供給によりMVNOからリテールまで多様な販路へ向けた展開を予定。



WiMAX-WiFi-GW



USB dongle 端末

先行開発を行ってきたアドバンテージを活かし、応用製品の投入などを計画。



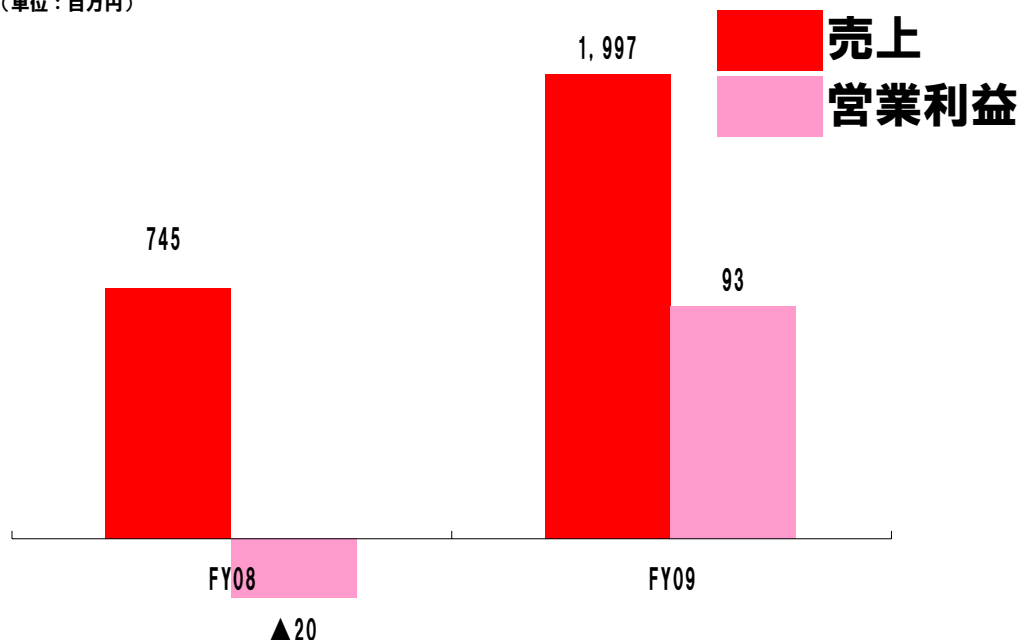
Mobile-GW（検討中）

FY09通信方式別売上見込（3G系）

（単位：百万円）

	FY08	FY09	増減率
売上高	745	1,997	62.7%
営業利益	▲20	93	121.5%

売上高・営業利益
（単位：百万円）



3.9G(LTE)への移行を見越し、マルチ
キャリア対応を推進、MVNO対応を
含め多様に展開



HSPA端末



ソフトバンクモバイル網
対応M2Mモジュール



Androidなどオープン
端末への組み込み

3G応用製品のモバイルルータについて
対応機種を拡大し、販路を拡大

クティオ

写真1.「クティオ」ロゴ



写真1. モバイルブロードバンドアクセスポイント「クティオ」



写真2. 「クティオ」とD01NXIIの接続例

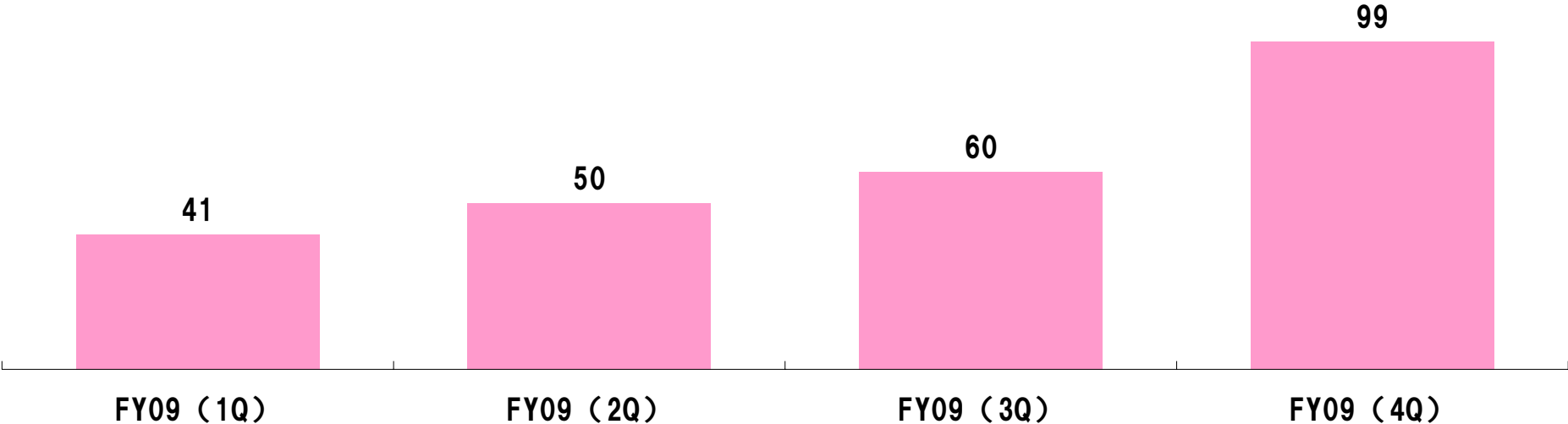


写真3. 「クティオ」とD02HWの接続例



ネットインデックス単体 FY09営業利益推移

ネットインデックス単体 FY09 (1Q) - FY09 (4Q) 営業利益



FY09(1Q)
XGP/WiMAXの
開発 & WiMAX
の製品リリース

FY09 (2Q)
XGPの製品開発
& 試験サービス
への対応

FY09 (3Q)
XGPの製品
リリース

FY09 (4Q)
次世代通信
(XGP/WiMAX/3G)
商品アイテム
の多角化

ネットインデックス財務状況

連結貸借対照表 –FY07比較

(単位：百万円)

	FY07	FY08	FY07比 (%)
流動資産 合計	4,312	2,607	60.4%
固定資産 合計	834	1,033	123.8%
流動負債合計	3,374	2,673	79.2%
固定負債合計	375	73	19.4%
純資産合計	1,397	893	63.9%
総資産合計	5,147	3,640	70.7%

連結キャッシュフローの推移

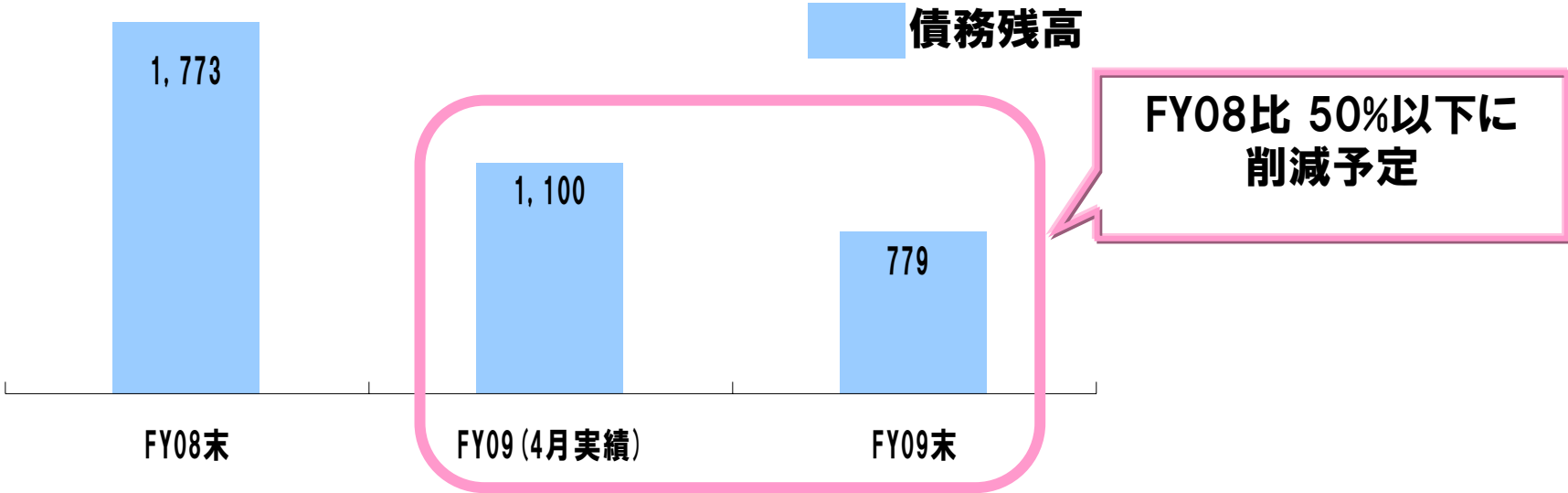
(単位：百万円)

	FY07	FY08
営業キャッシュフロー	900	▲1,738
投資キャッシュフロー	▲1,089	630
財務キャッシュフロー	336	712
現金及び現金同等物の増減額	135	▲406
現金及び現金同等物の期首残高	687	822
現金及び現金同等物の期末残高	822	416

FY09 連結有利子負債について

(単位：百万円)

	FY08末	FY09 (4月実績)	FY09末
借入	1,773	1,100	779
EBITDA			300
借入/EBITDA			2.59倍



今後の開発ロードマップ及び中期計画

10' ~ 12' 中期三カ年開発ロードマップ

2010年度

2011年度

2012年度

第三世代(3G) ⇒ 3.5G世代を経て



LTEグローバル・スタンダード化へ

モバイルデータ通信 = 通信速度下り最大40Mbps(HSDPA/XG-PHS/mobile WIMAX) ⇒ LTE (通信速度下り最大100Mbps)

次世代ネットワークNGNの普及 ⇒ FMCからFMBCへ(固定/モバイル通信とブロードバンド融合) ⇒ モバイルブロードバンド化

◆ 09年度までの既存技術による展開

- ◆ XGP / WiMAX / 3G...各種通信機器製品派生展開
- ◆ 各種通信技術とWiFi / Gateway機器とのコラボレーション市場拡大
- ◆ XGP / WiMAX SDカード開発の取組み
- ◆ MIMO技術の取込によるブロードバンド化への速度改善

netindex next core competency

- ・LTEプロトコル習得
- ・コグニティブ無線開発

モバイルブロードバンド化への対応
⇒マーケットドリブンの実現へ

XGP 2nd プラットフォーム

・ALTAIR社製ベースバンドLSI
通信速度上下最大20⇒40Mbpsへ

XGP SDカード

WiMAX SDカード

コグニティブ無線プラットフォーム開発
通信速度50Mbps(上) / 100Mbps(下)

netindex core competency

- ・モデムコア技術実績
- ・通信プロトコル開発実績
- ・RF技術 / 端末量産化実績

Core competencyを生かし
LTEプロトコル開発着手~LTE Chip set開発

◆ 通信市場変革に対応した
次世代モバイル製品投入

次世代モバイル通信の活用⇒マーケットドリブンの実現

セキュリティー

モバイル端末
の遠隔制御



遠隔ロック



無線監視カメラ
(設置は電源のみ)

AV・デジカメ

デジカメ



デジタル
ビデオカメラ



AV・デジカメの
メディア伝送

PC・UMPC

notePC



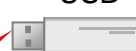
minPCI



UMPC



USB



モバイル用無線モジュール
はさらに小型化が進む

携帯・スマートホン

携帯電話



Dual無線

スマートホン



携帯電話も
複数無線ユニットを持つ

オフィス用品



電子黒板



TV会議



プリンタ・FAX

オフィス機器の
無線化

流通機器

POS



ハンディ
ターミナル



輸送機器



車や流通などの
移動体への搭載拡大

次世代 モバイルカード



セキュリティーへの応用

M2M市場が
大幅拡大

家庭用機器の
ネットワーク化

エンターテインメント機器は
WiFiからWANへ

端末・機器

モバイル
HDTV端末



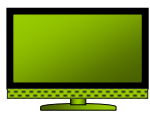
M2M



動画デジタル
サイネージ

家庭用機器の
ネットワーク化

家電製品



TV



家電製品

Game機

Game機の高速無線アクセス



カーナビ

テレマティクス
インターネットアクセス



カーナビ

中期三ヵ年開発ロードマップの要点

◆ 通信技術市場背景

- ◆ 通信市場は第三世代 ⇒ 第四世代へ移行していくが、その橋渡しが重要な課題となっている
- ◆ 国内の三大通信事業者はいずれもその橋渡しであるLTE (3.9G) への移行を表明済み。
- ◆ LTE (3.9G) は現行3G方式を長期間に渡り発展させようとしたものでありグローバルスタンダード継承を目指している。
- ◆ 一方でインフラとして次世代ネットワークNGNは今後普及が見込まれるため、上記通信方式発展とあわせ、その通信速度を生かしたサービスの実現、展開、普及が今後課題になっていくと見込まれている。
- ◆ また無線は有限な資源であり通信速度の高速化による周波数帯域の有効利用が常に求められている。

◆ LTE (3.9G)のピークデータレートは下り100Mbps、上り50Mbps以上であり、その技術要素は以下。

- ◆ データ変調方式: QPSK、16QAM、64QAMのいずれか(上り方向では64QAMはオプション)
- ◆ 多重化方式
 - ◆ 下りOFDMA (Orthogonal Frequency Division Multiple Access 直交周波数分割多元接続)
 - ◆ 上りSC-FDMA (Single Carrier Frequency Division Multiple Access シングルキャリア周波数分割多元接続)
- ◆ 全二重化モード: FDDまたはTDD
- ◆ MIMO技術搭載

◆ 当社開発の実績と見通し

- ◆ XGP開発において上記LTEに含まれる変復調、多重化、TDD制御などいずれも開発実績あり
- ◆ またODM開発による3G製品の国内市場への投入も実績あり(認証、評価実績あり)
- ◆ WiMAX、XGP、LTEともに物理層の基本技術は同一。従って共通ハードウェアプラットフォームは実現可能。

◆ マーケットドリブンの実現へ

- ◆ 共通プラットフォームを用いた次世代モバイル製品開発
- ◆ コグニティブ無線開発による周波数有効利用への寄与
- ◆ モバイルブロードバンドサービスを実現する製品群の投入
- ◆ 共通プラットフォームライセンス、ネットワーク側サービスの導入、検証サービスなど新規事業分野の拡大

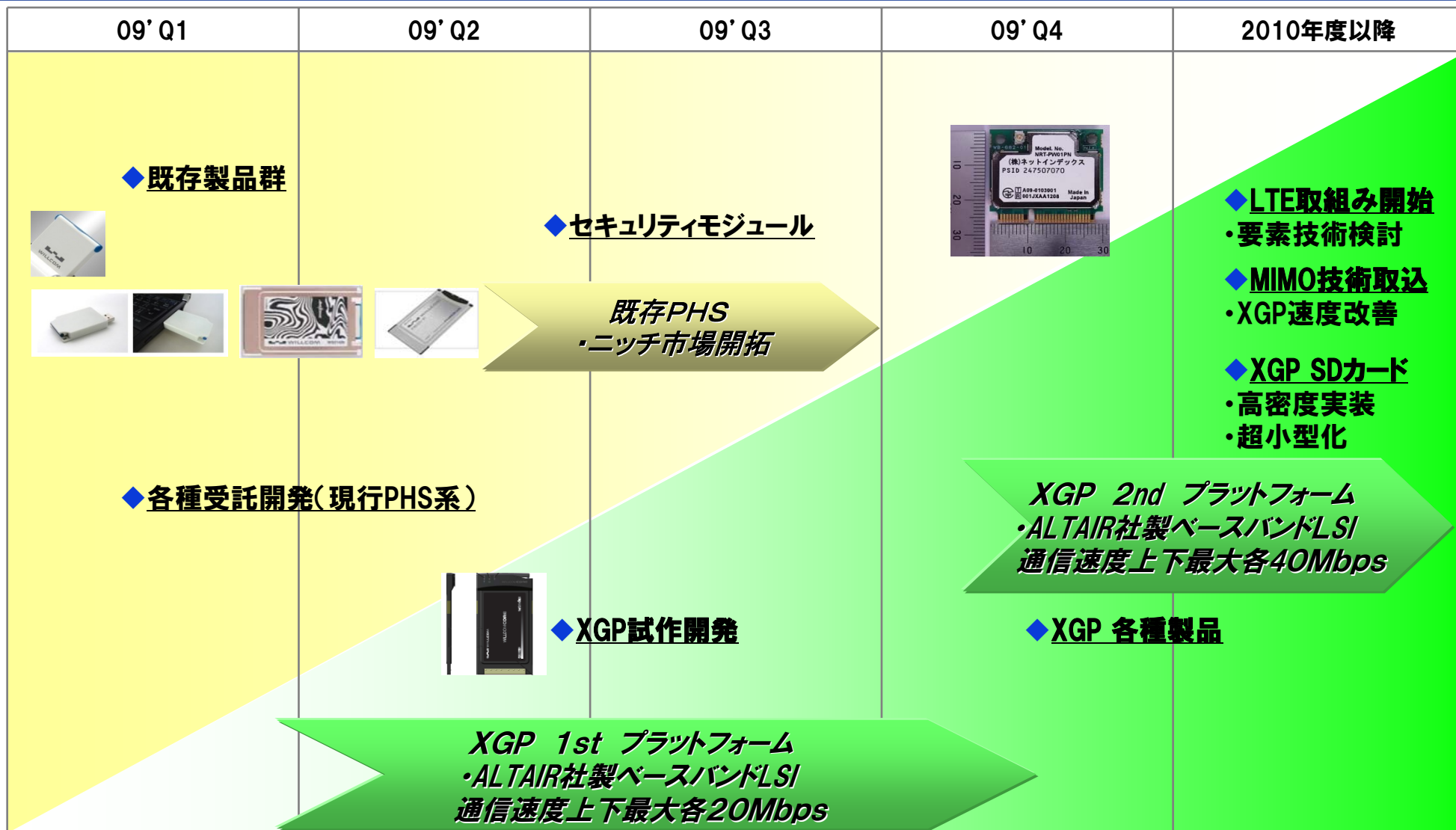
補足資料

事業セグメント別業績 – 前期比較

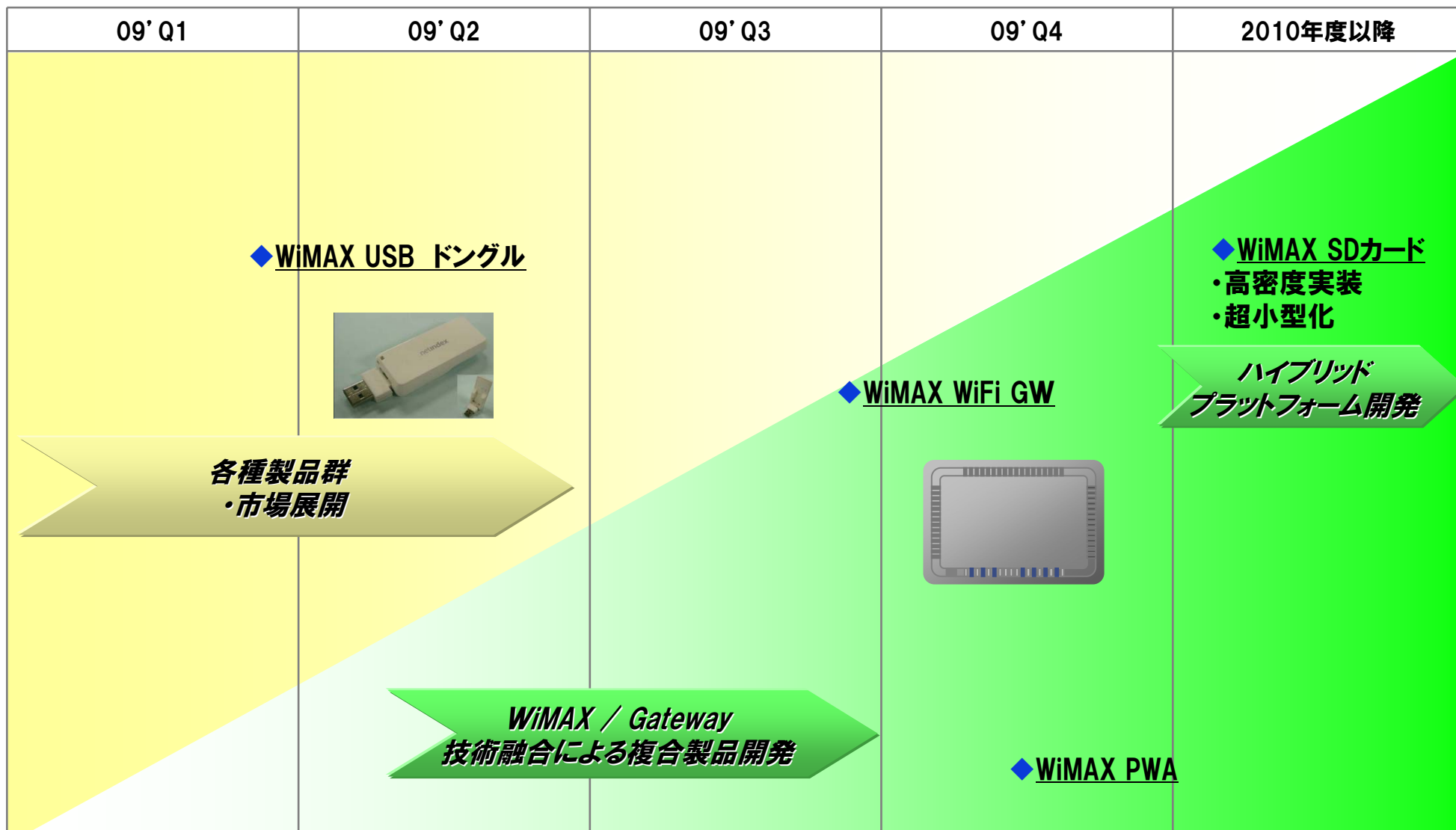
(単位:百万円)

	FY07				FY08			
	売上高	百分比 (%)	営業利益	利益率 (%)	売上高	百分比 (%)	営業利益	利益率 (%)
連結	9,793	100	61	4.7	5,027	100	▲215	▲4.3
モバイル& ワイヤレス事業	8,646	88.3	631	11.8	3,814	75.9	174	4.6
デジタルホーム ネットワーク事業	236	2.4	62	52.5	90	2.0	▲9	▲8.7
システム& サービス事業	901	9.2	▲30	35.3	1,122	22.5	▲70	▲6.2
その他事業	7	0	4	1.8	0	0	0	0
全社・消去	—		606		—		310	

FY09 PHS/XGP系開発・プロダクトロードマップ



FY09 WiMAX系開発・プロダクトロードマップ



FY09 3G系開発・プロダクトロードマップ

